大分工業高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	日本語表現法

科目基礎情報

科目番号	R04E402	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	電気電子工学科	対象学年	4
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	（教科書）授業配布プリントをテキストとする．／（参考図書）特になし		
担当教員	広瀬 裕美子		

到達目標

(1)様々な分野の文章について基本的知識を習得し，実際に作成することができる．（提出課題・定期考査)
(2) 決められた時間内・字数内で文章を作成し，実践力を養う．（提出課題・定期考査)
(3) 常用漢字(書き取り読み取り)・慣用句・四字熟語等の基礎的語彙力をつける．（語彙テスト・定期考査)

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)
評価項目1	様々な分野の文章について基本的知識を習得し，実際に作成することが十分できる.	様々な分野の文章について基本的知識を習得し，実際に作成することができる.	様々な分野の文章について基本的知識を習得し，実際に作成することができない.
評価項目2	決められた時間内・字数内で文章を作成することが十分できる.	決められた時間内・字数内で文章を作成することができる.	決められた時間内・字数内で文章を作成することができない.
評価項目3	常用漢字(書き取り読み取り)・慣用句・四字熟語等の基礎的語彙力を十分身につけている.	常用漢字(書き取り読み取り)・慣用句・四字熟語等の基礎的語彙力を身につけている.	常用漢字(書き取り読み取り)・慣用句・四字熟語等の基礎的語彙力を身につけていない.

学科の到達目標項目との関係

学習・教育目標 (C1)
JABEE 1.2(f) JABEE 1.2(g)

教育方法等

概要	・多方面に渡る日本語の文章について基本的知識を習得し，実際に作成することで文章力・実践力を養う. ・「語彙テスト」を授業及び定期試験で実施し，基礎的語彙力を身に付ける. 〔科目情報〕 教育プログラム第1学年　◎科目 関連科目　地域日本文学(後期)，現代文(3年)，卒業研究(5年)
授業の進め方・方法	基本的に講義を行った後，指示された課題に取り組む. 〔事前学習(準備)〕 各授業で指示された準備物は，必ず持参すること.
注意点	〔履修上の注意〕 課題提出を評価して，課題点(30点満点)とする. 課題提出は，実践力修得のため期限(時間)内提出を厳守とする. 授業で用いたプリントは，試験の範囲になるので必ず保管しておくこと. 〔自学上の注意〕 課された課題は，確実に期限(時間)内に提出すること.

評価

〔総合評価〕
総合評価＝(2回の定期試験の平均点)×0.7＋(課題の平均点)×0.3
〔単位修得の条件について〕
総合評価60点以上.
〔再試験について〕
総合評価が59点以下の学生に対して実施.

授業の属性・履修上の区分

☐ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	日本語の基礎知識	日本語の基礎知識（語彙・表記）が理解できる.（MCC Ⅲ-A）
		2週	原稿用紙の書き方	原稿用紙の書き方が理解できる.　（MCC Ⅲ-A）
		3週	履歴書の書き方(1)	履歴書の書き方(1)が理解できる.　（MCC Ⅲ-A）
		4週	履歴書の書き方(2)	履歴書の書き方(2)が理解できる.　（MCC Ⅲ-A）
		5週	エントリーシートの書き方(1)	エントリーシートの書き方(1)が理解できる.　（MCC Ⅲ-A）
		6週	エントリーシートの書き方(2)	エントリーシートの書き方(2)が理解できる.　（MCC Ⅲ-A）
		7週	封筒の書き方	封筒の書き方が理解できる.　（MCC Ⅲ-A）
		8週	前期中間試験	目的・到達目標(1)(2)(3)
	2ndQ	9週	前期中間試験の解答と解説 手紙の書き方(1)	誤答箇所の確認・復習. 手紙の書き方(1)が理解できる.　（MCC Ⅲ-A）
		10週	手紙の書き方(2)	手紙の書き方(2)が理解できる.　（MCC Ⅲ-A）
		11週	はがきの書き方	はがきの書き方が理解できる.　（MCC Ⅲ-A）
		12週	往復はがきの書き方	往復はがきの書き方が理解できる.　（MCC Ⅲ-A）
		13週	敬語の用い方	敬語の用い方が理解できる.　（MCC Ⅲ-A）
		14週	ディスカッション	自分の意見を伝え，他者の話を傾聴することができる.（MCC Ⅲ-A）
		15週	前期期末試験	目的・到達目標(1)(2)(3)

		16週	前期末試験の解答と解説	誤答箇所の確認・復習

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	前1,前2,前3,前9,前10,前11,前12,前13,前15,前16
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	前1,前2,前3,前9,前10,前11,前12,前13,前15,前16
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	前1,前2,前3,前9,前10,前11,前12,前13,前15,前16
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	前1,前2,前3,前9,前10,前11,前12,前13,前15,前16
				伝統的な言語文化への興味・関心を広く持ち、その特徴を説明できる。	3	前1,前2,前3,前9,前10,前11,前12,前13,前15,前16
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前15,前16
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	前4,前5,前6,前7,前8,前9,前14,前15,前16
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	前4,前5,前6,前7,前8,前9,前14,前15,前16
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	前4,前5,前6,前7,前8,前9,前14,前15,前16
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	前14
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	前14
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	前14
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	前4,前5,前6,前7,前8,前9,前14,前15,前16

評価割合

	試験	課題	合計
総合評価割合	70	30	100
基礎的能力	70	30	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0